

令和6年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
第2学年	1 面談を通じた生徒理解	(1) 定期的に生徒面談を実施し、良好な関係を築く。年間5回以上の面談を目標とする。 (2) 夏季・冬季休業を利用し、保護者との面談を実施する。保護者面談において、生徒の実状に応じた対応を心掛け、信頼を得る。	B	C	(1) 各担任は年間3回以上の面談を実施。しかし、生徒理解という意味では不十分で、周知な質問事項を用意しての面談が必要であった。 (2) 事前に進路に関する資料を準備して臨んだ三者面談は有意義な情報交換が出来た。
	2 生活習慣と規範意識の確立	(1) 生徒指導部と連携し、身だしなみを整え、規範意識を育む。 (2) 教育相談と連携しながら、特別活動やHR、道徳の時間を活用し、生徒の心や人間関係の構築を図る。その中で基本的な生活習慣を身につける。 (3) 手帳を用い、起床時間、就寝時間学習内容を日々記録する。	C		基本的な生活習慣の欠如、規範意識の低さが目立ち、転出者を多く出してしまった。生徒というより、教員の意識改革が必要である。寄り添いと指導の境界線を見極め、毅然とした態度で接することの必要性を感じた。状況に応じてどう対応するかの見極め、見極めを鍛え、適切な声掛け、指導をしていく必要がある。
	3 進路意識の向上	(1) 進路ガイダンスの実施やオープンキャンパス等への参加を促し、進路を具体的に意識させる。 (2) 放課後の過ごし方をクラスで共有し、学習時間の確保に努め、学習環境を整える。	C		積極的にオープンキャンパスに参加するなど、進路に向かう姿勢は良い。しかし、放課後残って進路達成に向けて勉強している生徒は少数で、家庭学習時間も少なく、やるべき事を理解しての行動力はまだ低い傾向が見られる。